センターだより

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

１月号
令和6(2024)年1月31日発行

吹田市立教育センター
大阪府吹田市出口町2－1
TEL　06－6388－1455
FAX　06－6337－5412
メール　s-educ@city.suita.osaka.jp

教育センターは南千里に移転します！～No.3～

新しい教育センターで初めての研修を開催！

8階 研修室Ａ

令和6年4月より教育センターは「吹田市総合防災センター」（南千里駅前）、通称ＤＲＣ（ディーアールシー）（Disaster Reduction Centre） Suita の8･9･10階に移転することをこれまでお知らせしてきました（センターだより第2号、第3号参照）。

現在、工事は、ほぼ終了しており、備品の搬入が終われば使用可能となります。

そこで、**新しい教育センターで実施する記念すべき初めての研修**を何にするか、検討した結果･･･

スーパーティーチャー研修「田中博史先生×尾﨑正彦先生に学ぶ1day」に決定しました!!

昨年度に引き続き、田中博史先生（「授業･人」塾主宰）と尾﨑正彦先生（関西大学初等部教諭）の夢のコラボで丸一日、学級経営や授業づくりについてたっぷり学ぶことができる貴重な研修です。昨年度も 150 名を超える受講者がおられましたので、新教育センター最大の 200 名収容可能な研修室Ａ（写真参照）で開催します。

なお、DRC Suita にお越しの際は、公共交通機関をご利用ください。研修室のある階（8階、9階）まではエレベーターを使用するため、研修開始直前は混雑が予想されます。時間に余裕をもって到着するようお願いします。

スーパーティーチャー研修
土井先生 「学び続ける教師×ICT 活用」

「子供たちが ICT を使って思考を効果的にアウトプットするにはどうすればいいか…」

GIGA 元年から3年目を迎え、カメラ機能の活用や検索、授業支援ソフトを活用した考えの共有など各校における一人一台端末の活用は進んできているところですが、今後は、いかに自分の考えを ICT を用いて効果的に表現できるかが問われてきます。このようなスキルを子供たちが身に付けられるよう、土井先生のスーパーティーチャー研修では、受講者同士のつながりを構築しながら、まずは教師自らが体験的に学び、ICT 活用指導力の向上をめざしてきました。

講義の中では、iPad のアプリケーションにある「Keynote」を使用して、プレゼン作りを活用した授業づくり講座をしていただきました。受講者の先生たちの中で、これまで「Keynote」を使用したことがないということで不安そうな方もおられましたが、研修後には、自信に満ち溢れている様子でした。受講後の先生方の感想の中で、「Keynote を自分自身は全く使ったことがなかったので、今回の研修は大変ありがたかったです。もっと自分自身のため、そして普段の授業で取り扱うことができるよう知識として深めていきたいと思います。」という声が挙がっていました。

動画作り「Clips・iMovie・Keynote」を活用した授業づくり講座も実施していただきました。この回は3つのアプリを複合して、授業づくりに生かしていく方法を研修の中で考えました。1つ1つのアプリの良さを生かしながら複合することで、より授業で活用しやすいことを教えていただきました。受講者からは、「創意工夫していく中で自然に内容（学習など）について深く理解したくなり、どう表現したら相手によく伝わるかを考えられる活動になるなと思いました。今後ぜひ取り入れていきたいです。」や「教員もまずは色々使ってみて体験することがとても大事だと感じました。多忙を言い訳にせず、多忙だからこそ iPad を上手く活用して学びの多い授業ができるように頑張っていきたいと思いました。」という声が挙がり、連続講座だからこその、教職員の学びの成長にも繋がっていきました。

「GarageBand」を使用した授業づくりを講座では、約10年に土井先生が実践された授業動画を提示していただきました。「GarageBand」は、音を作っていくアプリケーションであるため、教科としては「音楽」というイメージが強いですが、土井先生は国語科で活用され、物語の情景に合わせた音作りを児童に考えさせる展開でした。
受講者の先生が前のめりで研修を受けている姿が印象的でした。

令和５年度 吹田市教育研究大会 報告

大会テーマ

「今 吹田から 未来(あす)の力を 生命(いのち)かがやき ともにつながり 未来(あす)を拓く吹田の教育」

講演テーマ

「吹田の子供の学びの姿から これからの学び創りを考える」

本研究大会は、教職員と教育委員が一堂に会し、吹田市の教育の方向性を共通理解し、学びを深める場として平成19年度より始まりました。以降、形態を少しずつ変えながらも回を重ね、これまで続いてきた大きな大会です。今年度は、新たに集合対面と当日オンラインでのライブ配信のハイブリッド型研修というかたちで開催しました。

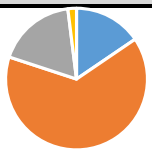
講師には、上智大学 教授 奈須 正裕氏、島根県立大学 教授 齊藤 一弥氏をお招きし、「吹田の子供の学びの姿から これからの学び創りを考える」のテーマの下、日々子供と向き合って授業を行っている4名の先生方にも登壇いただき、実際の授業の様子も踏まえた対談をとおして、子供の有能さを引き出す授業への転換、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けたこれからの学び創りのあり方について学びを深めました。

吹田市教育研究大会アンケート

1.回答者数	1471名
2.参加方法	当日：集合対面 675名、オンライン 738名 後日：動画視聴 58名
3.対象	吹田市内教職員 ・こども園・幼稚園 ・小学校 ・中学校

4.研究大会の内容はどうでしたか？

01.とてもよかった	229
02.よかった	955
03.あまりよくなかった	266
04.よくなかった	29



5.研究大会の内容は、実践・指導技能の向上に役立ちますか？

01.とても役に立つ	258
02.役立つ	938
03.あまり役に立たない	244
04.役に立たない	22

6.本日の学びをどの場面で活用しますか？

01.学習・生徒（子供）指導、学級経営（集団づくり）	1155
02.会議や行事等の運営	53
03.研究活動や研修企画	297
04.他教職員への助言や育成	243
05.業務効率化、勤務時間適正化	17
06.保護者や地域との連携・対応など	36
07.その他の活用	20
08.活用は難しい	106
09.その他	63

7.幼稚園教育要領・学習指導要領に基づく、資質・能力ベイスの授業づくりに、今後、積極的に取り組んでいきたいと思いますか？

01.強く思う	230
02.思う	1047
03.あまり思わない	152
04.思わない	31

7. 幼稚園教育要領・学習指導要領に基づく、資質・能力ベイスの授業づくりに、今後、積極的に取組んでいきたいと思いますか？		
校種	「強く思う」と「思う」を選択した方の理由及び考え	「あまり思わない」と「思わない」を選択した方の理由及び考え
幼稚園・こども園	100%	0%
小学校	86%	13%
中学校	89%	11%

8. 7の理由及びあなたの考えを教えてください。		
校種	「強く思う」と「思う」を選択した方の理由及び考え	「あまり思わない」と「思わない」を選択した方の理由及び考え
幼稚園・こども園	●保育でも同じことがいえると感じ、年間を通して断片的にではなく、継続した保育、幼稚園教育要領などの育ってほしい姿を意識した保育をしていきたいと改めて実感することができた。 ●直接体験の中で自ら興味を持って関わり、探求、発見し、学びを深めていくということは、幼稚園教育における基本であり、保育の本質である。今後も、子供達の姿を見つめ、理解し、資質能力の基礎を培い、生きる力、小学校への学びにつなげていける力を育んでいきたいと思う。	
小学校	●学習指導要領の各教科の「見方・考え方」を、全教職員が理解した上で授業づくりを進めることが、子どもたちにとっても自己の学びを獲得し、生きる力を育むことになると考える。 ●どんどん新しいことや覚えることが増えて、大変になる学び方ではなく、学びがつながり、子供たちが自ら学びをつなげ、展開していくことができると思うからです。 ●「子供たちに今後使える“道具”を身につけさせる」という言葉をきき、教科書の内容を教えて終わるのではいけないと学んだ。既習事項を活用するための見方・考え方を身につけさせ、実際に活用する場面を設定することで、子どもが主体的に活動する授業を実践したい。 ●指導の方法論だけでなく、まずは学習指導要領をしっかりと読み、各教科の系統性や本質を知り、子どもにどのような力をつけることを目指すべきなのか、きちんと知った上で授業を考えることが大切であると感じたからです。 ●自分の思いを伝えることができ、相手の思いを「なるほど」と受け止め、また指摘されたことを生かせる子ども像を描きながら、指導の計画を立てていきたい。	●指導方法については先生の持ち味があり、学習指導要領に則した目的がブレていなければ千差万別あって良いと思います。 ●能力ベイスがどういうこととなのかが浸透していないように感じます。日々忙しい中、研修に行く（行かせる）こともなかなか難しいです。 ●能力ベイスという名前がなくても、当たり前のこととしてすでにやっている。 ●取り組みたいが、勉強不足で何から取り組んだらいいかわからない。 ●内容が難しく、自分の教科や授業に当てはめて聞くことができなかったため。 ●能力ベイスの知識を初めてこの研究大会で学習したため、理解不足ではありますが、授業で取り入れるにはもっと手立てが必要な場面がでてきそうだと思いました。 ●能力ベイスの授業が子どもに生きていく力をつけられることは理解したが、どこから子どもを育てていけば良いかまだ見当がつかない。もう少し整理したい。
中学校	●本当の生きた学力を子供たちにつけるという、夢や理想と思われがちであったことが、この実践を積むことによって形になると思っています。また、教科を超えて共通した言語を手に入れる好機であると思います。 ●学習者主体の授業改革は、そもそも当然のことであり、学習指導要領に明確に示されているから。 ●子どもたちの将来に向けて、教師側の授業を発展させていかなければいけないと強く感じている。その学びを継続した先に、次世代の創り手が育成されると考える。能力ベイスの授業づくりの視点がスタンダードになり、すべての教科で実践されていけば、よりよい学びにつながり、子どもたちのよりよい成長につながっていくと考えている。 ●「自分自身がどんな授業をしたいか」だけではなく、単元全体をイメージして、「生徒自らが考えつくっていく授業」に転換しないと、生徒が身に付く力も限られると思ったから。 ●「なぜ理科を学ばなければいけないのか」子どもから何度となく質問されたことがありました。私の授業は「内容ベイス」だったような気がします。理科という教科で何を学び、どんな力を育むのか。そういった教科の本質の視点で授業づくりを行っていきたいと思います。 ●「自立した学習者を育てる」「学びは個でおこる」などの指摘に共感したため、積極的に進めていきたい。	●「使えるほど、理解できなかった」ことが一つの理由です。きっと授業を豊かにするものと思いますが、さらに身を削ってまで取り入れたいとは思いません。もう少し、とっつきやすくわかりやすく、簡単に使えるものになりませんでしょうか。 ●取り組みたいという思いはあるが、限られた勤務時間内で実行することは不可能であるから。授業づくり以外の業務に時間を奪われすぎているので、それらの業務を削減することが先決だと考えています。 ●目指していることが高いレベルのようで私には理解が及ばなかった。基礎理解、知識のバラバラな生徒にどのように指導していくのか、あまりにも差がある。その子の基礎学力、学ぶ意欲をどうつけるかが難しいと思う。 ●わからないことが多く、取り組む場面が思いつかないため「あまり思わない」にした。

生徒指導提要に基づく不登校児童生徒支援のあり方について

現在、本市では全国同様に様々な要因、背景から不登校児童生徒が増加の一途をたどり、学校では対応に苦慮されていることと思います。そこで、不登校児童生徒支援について、教育センター研究員から、大阪府不登校ワーキンググループ等での実践交流や吹田市内の学校での実践を踏まえ、学校における不登校児生徒支援についてまとめました。是非、各校での支援の参考にしていただければと思います。

不登校に関する生徒指導の重層的支援構造

生徒指導の重層的支援構造（２軸３類４層構造）

時間軸 ２軸	課題性と対応の種類 ３類	生徒指導の種類 ４層	不登校に関する生徒指導
事後対応型 即応的 継続的 (リアクティブ) 生徒指導	困難課題対応的生徒指導	**困難課題対応的生徒指導** 特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒を対象に、校内の教職員だけでなく、校外の関係機関との連携・協働による課題対応	ケース会議に基づく、不登校児童生徒に対する家庭訪問や、SC・SSW等によるカウンセリング、及び別室登校や校外関係機関と連携した継続的支援
	課題予防的生徒指導	**課題予防的生徒指導：課題早期発見対応** 課題の予兆行動がみられる・題行動のリスクが高まるなど、気になる一部の児童生徒を対象に、深刻な問題に発展しないように、課題を早期に発見し、初期段階で諸課題に対応	休み初めの段階でのアセスメント（スクリーニング会議）と教職員、SC、SSW、保護者の連携・協働による支援の開始
先手型 常態的 先行的 (プロアクティブ) 生徒指導		**課題予防的生徒指導：課題未然防止教育** 全ての児童生徒を対象に、生徒指導の諸課題の未然防止をねらいとした、意図的・組織的・系統的な教育プログラムの実施	児童生徒のSOSを出す力の獲得と、教職員の児童生徒の変化に気づきSOSを受け止める力の向上、及び教育相談体制の充実
	発達支持的生徒指導	**発達支持的生徒指導** 特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校教育の目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において求められる基盤となる	児童生徒にとって学校が安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の工夫

文部科学省『生徒指導提要』 p.17.～p.23. 第１章 生徒指導の基礎 1.2 生徒指導の構造　p.229. 第10章 不登校　10.3 不登校に関する生徒指導の重層的支援構造

吹田市内の小中学校における校内教育支援教室を活用した児童生徒の居場所づくりの例

欠席が長期化している児童生徒の居場所としての校内教育支援教室

○登校しづらい児童生徒が学校とつながるために活用できる。
○校内教育支援教室を利用する児童生徒同士のつながりができて、登校のモチベーションになったり、子どもたちどうしでフォローしあったりしている。
○学校に来ることに不安が強い児童生徒もいるので、保護者の滞在もOKにしている。

登校渋りや不安を抱える児童生徒の居場所としての校内教育支援教室

○「校内教育支援教室でも過ごせる」という選択肢ができてから登校できる日が増えた。
○安心できる居場所として教育支援教室を確保することで、教室で活動する時間が増えた。
○教室に入りづらい児童生徒も、いったん校内教育支援教室で話を聞いて気持ちを落ち着けると、教室に向かうことができる。
○クールダウンの場として活用することで、教室で落ち着いて過ごすことができるようになっている。

校内教育支援教室での活動の内容

○学習以外の活動があることで、来やすい児童生徒がいる。
(例)体を動かす活動、読書、絵、塗り絵、折り紙、工作、手芸、カードゲームやボードゲーム　など
○学習活動でも、プリントやワークだけでなく、教科の作品作りなどの活動を取り入れる。
○ボランティア（大学生・保護者等)を活用して、子どもの活動に寄り添ってもらう。

さつきらるーむ

経験年数の少ない教職員のいろいろな悩みを個別相談できるところです！

- ◆ 開室時間　午後5時00～午後6時30分（申込時 要相談）
- ◆ 場　　所　教育センター他（オンラインでの実施も可能です。申込時に御相談ください。）
- ◆ 対 象 者　初任者教員等 経験年数の少ない教職員　※複数で相談を希望することも可
- ◆ 対 応 者　教育センター指導主事等
- ◆ 内　　容　仕事に関するすべての悩みを相談できます。（授業づくり・学級経営・保護者対応等、何でもOK）
- ◆ 申込方法　メールまたは電話（06－6388－1455）にて申し込みください。

メール送信先　① 初任者研修担当へ

校支援システムにて、初任者研修担当　宛

② 教育センター代表メールへ　s-educ@city.suita.osaka.jp

以下の内容を記入ください。

件　　名：さつきらるーむ

本　　文：①学校名　②相談者名　③希望日時　④相談内容